

## 羽衣国際大学 令和六年度入学式 式辞

最初に、今年元旦に発生した令和六年度能登半島地震および翌二日の羽田空港での事故によって犠牲となられた方々のご冥福を、大学教職員一同、心からお祈り申し上げますとともに、被災された方々が一日も早く日常を取り戻されることを祈念いたします。

本日、ここに羽衣国際大学令和六年度入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びです。ただいま現代社会学部 二一二名、人間生活学部 一二八名、合計三四〇名の入学を許可いたしました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またこのたび入学される新入生を育て、支えてこられたご家族、関係者の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、羽衣国際大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症もようやくほぼ終息し、この三年間、規模を縮小して執り行わざるをえなかった入学式も、本日はコロナ禍前と同様に多くのご来賓の皆様にご臨席賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

本日入学される皆さんの高校での三年間のうち、特に最初の二年間は新型コロナウイルスによるパンデミックと重なり、各種の活動が制限される中、辛い思いをされてきたと思います。不安と闘いながら高校生活を送り、進学の準備を進め、本日の入学式を無事迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。

さて本学は、今から百一年前の一九二三(大正十二)年に、鳥村育人先生らによって設立された羽衣高等女学校を起源としています。女子に高等教育は不要であるという当時の常識に異を唱え、女性もまた豊かな教養と高度な専門知識を持った社会人とならなければならぬという信念のもとに設立されました。鳥村(育人)先生は、羽衣高等女学校第一期生に大きな期待と誇りを持って、「あなたが本校に在学なさることとは本校の名譽であります」という言葉をかけられました。私もまずこの言葉を新入生の皆さんに贈りたいと思います。

戦後、羽衣高等女学校は、羽衣学園中学校・高等学校となり、一九六四(昭和三九)年には羽衣学園短期大学が設立されました。その後二〇〇二(平成一四)年に短期大学を一部改組転換して、男女共学の四年制大学として設置されました。今年、大学は開学二十二年目を、そして羽衣学園は創立百一年目を迎えます。

学園の建学の精神は、「愛真教育」を基盤とした「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」です。これを言い換えるならば、「時代の常識を疑い偏見や臆断から自由であること、つねに自主的に物事に取り組みすること、謙虚さを持って自らを律すること、そして自ら同様に他者の個性を尊重する」人間性育成の精神です。このような人間性を備えた「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」こそ、本学の目的・使命であると考えています。

世界を見渡すと、一昨年の二月二十四日に始まったロシアによるウクライナ侵攻によって、ウクライナとロシアの多くの若者が命を落としています。さらにすでに七十年以上解決の糸口が見えないパレスチナにおいて、昨年十月七日にパレスチナ自治区の方々が大规模な戦闘が始まり、パレスチナとイスラエルの双方に犠牲者が出ました。現在に至ってなお食糧を初めとする支援物資搬入もままならず、医療も崩壊した人道的に危機的な状況におかれたガザ地区では、高齢者や病者の方、乳幼児などの弱者を中心に、飢餓によるものも含めて犠牲者は三万人を超えました。いずれの紛争も筆舌に尽くしがたい悲劇であるにもかかわらず、解決の目途が立っておらず、現在の国際情勢は、残念ながら「共生」とは逆に「分断」に向かっているように感じます。

他者を理解し、多様な個性を尊重することは、ときに容易ではなく、同じ国で生まれ育った人同士であっても、また同じ文化をルーツとする者同士であっても、残念ながら時に激しい対立や暴力に発展することもあります。異文化に育った者同士であれば、なおのこと難しく感じることがあるでしょう。悪意を持って暴

略を巡らせるなどは論外ですが、たとえ善意に基づいてまわりの人を思いやる場合でも、その表現の仕方が異なることで、思わぬ誤解が生じ、対立に発展してしまうことさえあります。

本学では、二十二年前の開学当初から多くの留学生が学び、社会に巣立ちました。今日もまた故郷を遠く離れ、ここ羽衣の地で学ぶ意欲を胸にした多くの留学生を、本学の一員として迎えることができました。新入生の皆さんには、国籍を問わず学生同士との交流を深め、文化的背景の異なる友人を見つけてくれることを願っています。そして自らの文化と異文化において大切にされてきた価値を理解して、開かれた精神で他者の思いを想像できる力を持った人になってほしいと思います。

今日から始まる四年間は、ほとんどの新入生にとって、自分の疑問を自由に追求できるまとまった機会としては、社会に出る直前の最後の貴重な時間です。大学での学びは、すでに確立した知識を一方的に受け取るだけの学びではありません。高校までの、ともすれば受け身になりがちであった学びの姿勢をリセットして、さまざまなことについて「そういうもの」として受け流すのではなく、一歩立ち止まって「なぜ、そうなのか」と自由に疑問を持ち、自らの手でひとつひとつの疑問を丹念に追求してください。そして、ぜひ表面的な現象にとらわれず、物事の本質を見極め、「より幅広い人々が共生できる社会」の構築に資する新たな価値を創りあげる基礎力を養ってほしいと思います。

また、教員と学生の間で、そして学生同士で学び合う場である大学で、今日からの四年間を活用して、自らの考えを培い、自分自身の未来像を描き、大きく変化する時代に力強く羽ばたく力を養ってください。在学中には、地域、企業、自治体などと連携した学外での学びや海外への留学など、オフ・キャンパスで学ぶ機会をぜひ活用して、日常生活では触れにくい現実と接し、広い世界を実感してほしいと思います。

さまざまな専門分野で研究や活動を実践する教員や、皆さんの学生生活全般を支援する職員が、ともに皆さんの成長を心から願っています。

新入生の皆さんが本学入学をこの自身の新たな出発点とし、これからの共生社会を創造し、主体的に行動する実践的職業人として、個性豊かに成長されることを祈念し、入学式の式辞といたします。

令和六年四月二日

羽衣国際大学学長 中川 忠